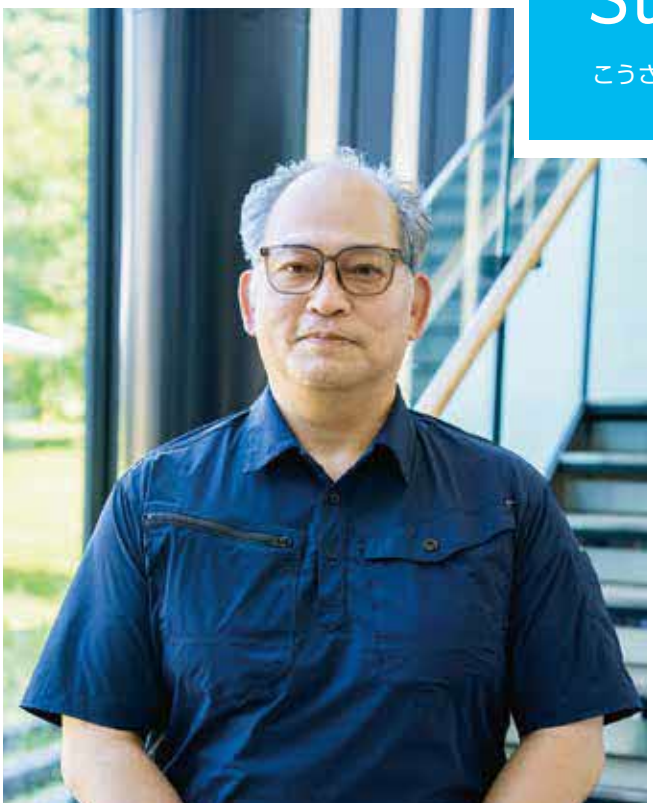
まちと人の想いが交わる情報交差点
広報こうさ
2026 june No.683

Kosa Style
こうさ スタイル



自衛官時代は単身赴任が長かった古賀さん。現在は熊本市内の自宅で家族と暮らし、休日にはドライブなどの小旅行を楽しむ。自然豊かな甲佐町でキャンプなどにも挑戦してみたいと話す。

古賀 義雄さん
Yoshio Koga

町危機管理防災課
課長補佐 兼防災対策監
兼消防防災係長

防災の最前線で培った経験を住民の大切な命を守る力に

高校卒業後、陸上自衛隊へ入隊。約38年間にわたり防災や航空機運用の最前線に立ち続けてきた古賀義雄さん(56)。この4月から町危機管理防災課の課長補佐兼防災対策監、消防防災係長として町民の安心・安全を守る業務にあたっている。

佐賀県みやき町(旧三根町)の出身の古賀さん。高校卒業後、陸上自衛隊へ入隊し、教育課程を経る中、ヘリコプターを運用する航空科部隊で航空機整備の道へ進むことに。昭和63年からは多用途ヘリの整備員として勤務し、機体整備だけでなく、災害派遣にも数多く携わった。

平成3年の雲仙・普賢岳噴火災害では、現地へ赴きヘリの誘導や離着陸地での対応を担当。林野火災の際には消火活動にも参加し、ヘリから散水するタイミングで放水スイッチを操作するという最前線での重要な役割も担った。

その後は木更津駐屯地で整備幹部となり、航空機整備の指揮や監督を担当。部隊運用を支える立場として経験を積んだ。平成22年の奄美豪雨災害では、孤立した集落へ高圧電源車をヘリで吊り上げ運搬するという困難な任務の現場を指揮し、「日頃の訓練があったからこそ、安全に任務を遂行できた」と当時を振り返る。西部方面総監部装備部では航空機幹部として、熊本、佐賀、沖縄に駐在するヘリの補給整備管理を担当。多用途ヘリの新機種導入や開発にも携わり、朝霞駐屯地や再赴任した木更津駐屯地では、オスプレイ導入から運用開始までの体制整備を支えるなど、数多の経験を積んできた。

本年3月に自衛隊を退職後、「これまでの経験を地域防災に生かしたい」と考え、内閣府が防災に関する専門知識や実務経験を持つ人材に与える「地域防災マネージャー」の資格も取得。本町での勤務もまだ始まったばかりだが、昨年の8月豪雨被害の大きかった宮内地区を中心に、公民館などを回りながら防災上の課題確認や備蓄品に関する助言を行っている。古賀さんは「高齢者も多く、山や川など地形によって危険性も変わります。だからこそ、自分の住む場所に合わせて、災害時にどう行動するかを考えておくことが大切です」と話す。

梅雨や台風など災害が起こりやすいこれからの時期に向け「まず大切なのは命を守ること。危険が迫ってからではなく、できれば前日の明るいうちに避難してほしい」と話す古賀さん。「災害時に慌てず行動するため、家族で避難方法や連絡手段を事前に決めておく『マイタイムライン』の作成もおすすめです」と町民に呼びかける。

長年、災害現場の最前線で培ってきた経験を、今度は本町の安心・安全のために生かしていく古賀さん。その確かな経験と知識で、防災に強いまちづくりを支えていく。

発行 甲佐町
発行人 甲佐町長 甲斐高士
編集 企画課

TEL 096-234-1111(代表)
FAX 096-234-3964
URL https://www.town.kosa.lg.jp/

UD FONT by MORISAWA